

(仮称)第2期吹田市教育振興基本計画 第3回意見聴取会 議事要旨

■日 時：令和2年2月21日（金） 13:00～14:00

■場 所：吹田さんくす3番館大会議室

■出席者

【学校関係者、学識経験者等（以下「学識等」という。）】

柳本敏恵（千里新田幼稚園長）、江下毅（南山田小学校長）、
村田正昭（第五中学校長）、和田大志郎（吹田市PTA協議会会長）、
村田芳昭（吹一・吹六地区青少年対策委員会委員長）、島善信（甲子園大学非常勤講師）

【事務局】

生駒教育政策室長、當学務課長、中西指導室参事、草場教育センター所長、小西まなび
の支援課長、長中央図書館長、坂原文化財保護課長、前田青少年室長、林放課後子ども
育成課長、古谷行政経営部総括参事、小林保育幼稚園室参事、市川教育政策室参事

■次 第

- 1.（仮称）第2期吹田市教育振興基本計画素案に対する市民意見について
2. その他

■配布資料

次第

- 資料1 第2回意見聴取会での御意見と対応
資料2 吹田市教育ビジョン（素案）
資料3 吹田市教育ビジョン（素案）に対する市民意見

■議事要旨

1 （仮称）第2期吹田市教育振興基本計画素案に対する市民意見について

事務局（進行）：本日の開会趣旨及び資料の確認・説明

学識等：意見聴取での意見が盛り込まれて、レイアウトを含めて非常に見やすくなった。
AETの拡充について、来年度から拡充されると聞いて大変うれしく思っている。
長年の願いが叶った。三島地区の他市町に引けを取らない小中9年間での英語教育ができると思う。

学識等：レイアウトの工夫、アスタリスクを付けていただいて見やすくなった。重点課題、
計画の見方の項目もできた。幅広い世代、現場の若い人にも活用できるものにな
った。幼児教育から義務教育までを一体的にとらえた小中一貫教育ということで、
大事なところに幼児教育が位置づけされていて嬉しい。各ブロックで幼小中一貫
カリキュラムもあり、めざす子ども像を幼稚園でも共有して、幼児教育から義務
教育に学びをつないでいくことが重要。現場でしっかりとこのビジョンを具体化

できるようにしていきたい。

学識等 : 分かりやすくなった。読みやすくして良い計画になった。先生方がこのように実践していただければ、保護者も手伝っていかないといけない、これをどれだけ浸透していけるかというところもあるので、PTAでも広めていけるように頑張っていきたい。

学識等 : 当初と比べて良くなって、読もうと思える計画になった。あとは市民がどれだけ目にしてくれるか。置く場所、配布の方法、その他PRも考えてもらえたらと思う。

パブリックコメントでは、結構厳しく専門的な鋭い御指摘があった。対応は大変かと思うが、うまく対応いただけたら良い。

学識等 : 大変良いものに仕上がってきた。限られた時間の中で精力的にこなされ、意見聴取の内容を反映し、中での議論も踏まえ、外からの意見も積極的に取り入れられ、大変良いものに仕上がって喜んでいる。その上で、全体と各論に関わることを申し上げる。現段階であるのでできることとできないことがあるのは承知しているが努力いただけるなら、ということできくつか申し上げる。

まず、全体に関わることである。全体として良い仕上がりになってきている。日本の社会全体、教育分野においても非常に変化が激しい状況の中で最大限いちばん直近のものも取り入れて、今日的な教育課題も随所に盛り込まれていてとても良い。2ページから4ページにかけて、教育を取り巻く状況について、吹田市としてはどう受け止めるのかまで、しっかり書かれているのは画期的ともいえる。従来からある教育ビジョンの見直しと次の5年間に向けてのビジョンという内容で、未来志向のビジョンになっている。

2つ目は2回の意見聴取をして細かいことも大きなことも一つひとつ大変前向きに誠実にきめ細やかに意を組んで、反映していただいた。それに対し大変感謝しているし、敬意を感じた。さまざまな意見を取り入れて、グレードアップした。

3つ目は見やすく読みやすい。行政文章ではない市民向けの日頃使っている言葉をあえて取り入れて、行政用語をできるだけ用いず、読んですぐ分かるような言葉づかいに留意されて書かれているので良い。具体的には全体像11ページ・12ページのところが非常に趣旨として分りやすくなった。重点課題3つについても、位置づけが明確になり、それぞれの重点課題を見開きで図表も入れ、レイアウトも非常に工夫されて分かりやすくなった。これにより、重点課題がこのビジョンの中にしっかりと位置付けられて、当面ここに力を注いでやっていくとい

うメッセージ性が非常に高いものになっている。

4つ目は最後の資料の用語解説について、本文の用語にアスタリスクをつけたことで非常に理解は進むだろう。これについてお願いだが、アスタリスクは少し見づらい。アスタリスクでなく、通し番号にすれば、より見やすいのではないか。用語にすぐに辿り着くように工夫があると嬉しい。

ここからは各論についてである。1つは私が改善意見を述べたことについての各論と、もう1つは改めて読んで、なお意見がある部分があるので、申し上げる。先ほども伝えた通りこの時点であるので対応が難しいことは分かった上で申し上げるので、「分かった、聞いておく」ということでも結構である。

まず改善意見について。4ページの子供の貧困対策についてはしっかりと盛り込んでいて良い。ただ、2014年8月に出された子供の貧困対策法は去年の6月に改正された。そしてそれを受け、大々的に事業化され、大規模な予算がつけられている。現在の記述は少し古いので、2019年6月に法改正され、国はこの問題を認識し、しっかり向き合おうとしているということを可能であれば盛り込んでほしい。これまでは自己責任論ばかりだったが、この法律によって、個別対策ではなく社会制度全体・社会全体として保障しないとイケないという社会モデルを示されたのがすごく大きい。全ては書けないと思うがもう少し最近のことを加えたら、よりメッセージ性が高まるのではないかと思う。吹田市はこれに関する予算を積極的に取りに行き、2021年度からの予算に向けてこれから動こうとされていると思うので、この点について述べた。

14ページの重点課題について、ここはしっかり位置づけられているが、2行目「重点課題は、教育の諸課題のうち～」の次、「複数の施策が連携し、横断的総合的に取り組んでいく必要のある課題と主として1つの施策を取り上げている課題がある」、つまり、横断的な課題と、1つの課題とがあると書いている。重点課題は3つしかないのに、これはどの課題だと明記できるとわかりやすいのではないか。「いじめのない学校づくり」「教職員の育成」は、1つの問題であり、横断的に取り組まないとイケないのが、重点課題2の「相談体制の充実」ではないか。これは市長部局も教育委員会も横断的に取り組まないと効果がなかなか上がらない。アウトリーチもそれぞれで行わないと効果が上がらない。記載については要検討していただきたい。

15ページの「いじめのない学校づくり」、これは深刻な重大事象・事案が発生しているので重点課題に挙げたという経緯があり、それを踏まえて四角囲みで冒頭に文章が書かれているが、パブリックコメントで大変厳しい意見が出ていた。それも受け、少し考えたが、四角の中の4行目「提言が示されました。これを受け、教育委員会は～やります」とあるが、「これを受け」というのは軽いのではないか。この提言をしっかり受け止めてやりますというメッセージが伝わるように、

「これを受け止め」、あるいはもうちょっと踏み込むのであれば「これを真摯に受け止め」と変えてはどうか。グラフ下2番目の○「いじめの未然防止には～」は、大事なことばかり書いてあるが「ともに適切に判断・対応できる体制や仕組みを構築し」とある。今、問題になってここで批判されていることは、適切に対応できていないという批判と、遅すぎるのでないかということである。そのため、「迅速適切に」とか「適切迅速に」とか、「迅速に」という言葉を追加したらどうか。

16 ページの「2 組織的対応の強化」について、「(仮称) Suita Friendly School Program」について用語解説のアスタリスクが抜けている。

28 ページの施策 9 の「虐待」という言葉が引っ掛かった。考えた上でこのようにしたのであれば結構だが、虐待は障がい者に対する虐待や高齢者に対するものなど様々あるので、「児童虐待」にした方が分かりやすい。

施策 11、学校教育を地域と連携してしっかり取り組むというメッセージはとも良い。2 行目「地域人材や学生ボランティアの活用や～連携により」となっているが、「連携により」という表現なので、ボランティアによる人的活用、図書館等の施設活用のみと捉えられかねない。活用するのはもっと他にいっぱいあるはずなので、「など」を入れる「～学校と図書館、博物館等の連携などにより」とした方が良いのではないか。

36 ページの施策 24 の 2 行目「多様な専門性を有する～確立します。」を追加したので吹田市としてはこのようにチーム学校を捉えている、教職員だけのチームではないと示しているのよくなった。

施策 26 の働き方改革の推進、4 行目が分りにくい。「組織体制の強化～図ります。」のところ、「チームとして対応を行う」というのはどういったことを言っているのか。「多様な人的支援等、組織体制の強化を行い、教職員の業務量の削減を図ります。」でも良いのでは。「チーム」は何のチームなのか。学校の教職員のチームか。

事務局 : 施策 24 に連動しており、チームとしての学校の意味である。

学識等 : そうであれば、もう少し分りやすく。教育委員会・教育行政と学校とのチーム化という読み取りもできなくはないので、ミスリードしないような表現にした方が良いのではないか。

38 ページの計画の推進、「進行管理」という言葉があるが、もう少し幅広い適切な言葉はないか。進行管理は当然、大事だが、ここで言っているのは進行管理を PDCA サイクルに基づくシステムとして進めますということがメッセージであり、単なる進行管理ではない。もう少し工夫する余地はあるのではないか。下か

ら2行目「PDCAサイクルを繰り返し、継続的な見直しを行うことにより」の「繰り返し」という文言、「繰り返し」と「継続的」は重複用語で、「繰り返し」というと毎年同じことをやるというようなイメージがあって、これはよくない。したがって、ここは例えば「繰り返し」を変えて「サイクルを活用し、継続的な見直しを行うことにより」というようなもう少し積極的なイメージが出せないか。

続いて、改めて感じたところをもう少し申し述べる。

2ページの社会潮流の(2)技術革新、グローバル社会の進展について、これはあまり入っていないような内容なのでとても良いと思う。できるだけ最新のことが盛り込まれており良いが、最後の「また人間ならではの感性や～」の「人間ならではの」という表現がもうひとつではないか。例えば「自立した人としての感性や創造性」、あるいは「自立した社会人としての感性や創造性」などが良いのでは。「人間ならではの」は少し意味が曖昧ではないか。

3ページの(2)新学習指導要領の全面实施について、しっかり触れており、国の動きをしっかりとらえているというメッセージ性のある内容になっておりとても良い。6行目から「～、3つの力をバランスよく育むことなどが示されています。」となっている。これはその通りだが、もう1つのメッセージとして「多様な他者との協働」という文言が入った。戦後初めて学習指導要領では前文が入り、その中で「多様な他者との協働」が明記されている。そのため、3つの柱と同時に「多様な他者との協働」をメッセージ性が強い文章として入れられたら良い。例えば、「バランスよく育む」のところに「バランスよく育み、多様な他者との協働の力・・・」のようにしてはどうか。

4ページの(7)教職員の資質能力の向上について、最後の行「そうした資質・能力の向上に向けて、養成・採用・現職研修の3段階での改革が示されています」、その通りだが、さらにここで中教審から提案されたのは、この3つをお互い連携をとってください、意欲的に関連付けてください、一貫したものにしてくださいということである。今までは大学における養成教育と教員採用および採用後の研修は、ぶつ切りだったが、これをひと続きのものとしてほしいということである。採用後の研修も、初任・中堅・ベテラン、それから管理職等の時期とあるが、キャリアステージということでこれもひと続きで行うことが求められているが、これは随所に盛り込まれており、大変積極的なメッセージになっている。

16ページの1「いじめが起こりにくい学校風土の醸成」の「風土」「醸成」とは何か。曖昧な言葉ではないか。「学校風土」も教師なら分かるが、市民は分かりにくいのではないか。「醸成」といえば、お酒が出来るような、ふつふつと出来上がっていくようなニュアンスであり、いじめ対応にふさわしい言葉なのか。さらに、「起こりにくい」とあり、悩んでこのような表現になったのはよく分かるが、例えば「いじめに対応できる学校づくり」など、はっきり言った方が良いのでは

ないか。起こさないような学校づくりが本来だけれども、もし起こってしまっても軽微なうちにそれが解決できる、しっかりと解決につなげる、ということで、起こってからの対応もできる、起こさないような事前防止の対応もできる、という意味も含めて「対応できる」としてはどうか。

19 ページの現状と課題 1 つ目の○「ベテラン教職員が少ない状況にある」、これはその通りなのだが、少ないどころではない。教育委員会事務局も危機感を持っているだろう。10 ページの年齢構成のグラフを見ても、中学校は 40 から 55 歳が本当に少ない。そのため、文章においても形容詞で「大変」「極めて」など危機感を表すような文言を取り入れたらどうか。パブリックコメントに出ていたが、現場が大変忙しくなっており、事務職員も含めて教職員が仕事に追われるという状況が今後も続くのではないか。そういった問題もどこかに入れる必要があるのではないか。この点について、教職員について触れている重点課題の 3 などにも入れたらどうか。

20 ページの取組の下「中核市移行に伴い～」とあるが、一般的な市と中核市ではステージが変わる。これまでは府教育委員会の教員研修も大いに活用して吹田市自前の研修も実施してきたが、これからは基本的には吹田市が実施しないといけなくなる。そうすると「これまで以上に」では、これまでがずっと連続しているようなイメージがあるので、そうではないのではないか。例えば「原則として」や、「基本的には市が主体として」など、中核市になることで変わることが伝わる表現にした方が良いのではないか。

4 校内研修の充実について(2)OJTによる資質向上が新たに追加されたが、まだ不満で、このページ全体を見ると、教職員の育成の取組のほとんど大部分を教育委員会が行う研修が占めている。中教審の提案を受けて文科省が出した教職員の育成方針では、「教師は学校で育つ」がメインのキャッチフレーズである。教育委員会による中央研修もとても大事だが、それだけではだめで、基本的に教師は学校でOJT等を通じて育っていくものだというメッセージがあるので、それを踏まえると、この内容構成はバランスに欠けるのではないか。中核市になり教育委員会は教員研修をしっかり充実して行うというメッセージは強く出ているが、教師を現場で育てるというメッセージがそれに比べて弱い。

事務局 : 今いただいたことについては事務局でまた再度確認し、最終案への反映について検討していきたい。

学識等 : 前に 2 回意見を述べさせてもらい、それを受けて考えてもらった結果、素晴らしいものができている。あとはこれを基に学校でどのように運用していくかを考えていかないといけないと改めて思った。

事務局：学校との協働なしには吹田の教育は発展していかないので、今後ともよろしくお
願いします。また、地域、PTAからは、見えているところだけでなく、逆に見え
ないところでの応援をいただくということが本当に学校への力となるので、引
き続きよろしくお願ひします。

2. その他

事務局（進行）：留意事項を1点伝えさせていただく。本日資料3としてお配りした、パブ
リックコメントの内容については、公表前のものとなるので、取扱いに配慮いた
だくようお願ひする。

事務局（進行）：今後の予定について説明